

移動等円滑化取組報告書（軌道車両）

（令和4年度）

住 所 大阪市住吉区清水丘三丁目14番72号

事業者名 阪堺電気軌道株式会社  
代表者名 取締役社長 藤井 哲

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律第9条の5の規定に基づき、次のとおり報告します。

I 前年度の移動等円滑化取組計画書の内容の実施状況

(1) 移動等円滑化に関する措置の実施状況

① 軌道車両を公共交通移動等円滑化基準に適合させるために必要な措置

対象となる軌道車両	現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容)	前年度の実施状況
車両の更新 (1101形車両)	移動等円滑化基準に適合していない老朽化した車両について、車両更新に併せて当該基準にさせていく。2031年度までに計7編成導入する予定。(既に低床式車両4編成導入済)	更新なし

② 軌道車両を使用した役務の提供の方法に関し法第八条第二項及び第三項の主務省令で定める基準を遵守するために必要な措置

対 策	現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容)	前年度の実施状況
—	—	—

③ 高齢者、障害者等が公共交通機関を利用して移動するために必要となる乗降についての介助、旅客施設における誘導その他の支援

対 策	現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容)	前年度の実施状況
障害者の接遇に関する民間資格をもつ職員の配置	・一日当たりの平均利用者数が3000人以上の駅には、交通事業者向け・バリアフリー教育訓練プログラム（BEST）を受講した社員1名以上配置する。(2022年度)	計画の通り実施済み

④ 高齢者、障害者等が公共交通機関を利用して移動するために必要となる情報の提供

対 策	現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容)	前年度の実施状況
乗降補助サービスの提供	乗降補助サービスの事前連絡先を、ウェブサイトや駅で広告することにより、取り組みの周知を図っている。	計画の通り実施済み

⑤ 移動等円滑化を図るために必要な教育訓練

対 策	現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容)	前年度の実施状況
接遇研修の実施	新たに乗降補助サービスの担当となった社員は、交通事業者向け・バリアフリー教育訓練プログラム（BEST）を受講する。	計画の通り実施済み

⑥ 高齢者、障害者等が高齢者障害者等用施設等を円滑に利用するために必要となる適正な配慮についての軌道車両の利用者に対する広報活動及び啓発活動

対 策	現行計画の内容 (計画対象期間及び事業の主な内容)	前年度の実施状況
車内放送での案内	ご高齢、障害者等が、優先座席を円滑に利用できるよう配慮についての車内放送を実施、啓発する。	計画の通り実施済み

(2) 移動等円滑化の促進を達成するために(1)と併せて講ずべき措置の実施状況

—

(3) 報告書の公表方法

当社ホームページ

(4) その他

—

(令和4年度)

II. 軌道車両の移動等円滑化の達成状況

(令和5年3月31日現在)

軌道の種類	事業の用に供している編成数 (両)	公共交通移動等円滑化基準省令に適合した編成数 (両)	車椅子スペースの数が公共交通移動等円滑化基準省令の規定を満たしている編成数	便所のある編成数	便所のある編成のうち車いす対応型便所のある編成数	案内装置のある編成数	車両間転落防止設備のある編成数
普通(その他)	35 43 編成 (両)	4 12 編成 (両)	4 編成	0 編成	0 編成	31 編成	4 編成
(合計)	35 43 編成 (両)	4 12 編成 (両)	4 編成	0 編成	0 編成	31 編成	4 編成

Ⅲ 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行規則第6条の2で定める要件に関する事項

(1) 過去3年度における1年度当たりの平均の輸送人員が1000万人以上である。	—
(2) 過去3年度における1年度当たりの平均の輸送人員が100万人以上1000万人未満であり、かつ、以下のいずれかに該当する。 ①中小企業者でない。 ②大企業者である公共交通事業者等が自社の株式を50%以上所有しているか、又は自社に対し50%以上出資している中小企業者である。	○